

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科) (2016.12) 平成28年度:25-26.

地域で生活する統合失調症を有する者の自己実現に影響する要因～半  
構造化面接を用いて～

石上 実那, 村西 穂奈美, 山田 真愛

# 地域で生活する統合失調症を有する者の自己実現に 影響する要因～半構造化面接を用いて～

石上 実那 村西 穂奈美 山田 真愛  
(指導: 長谷川 博亮 石川 千恵)

## 緒言

近年、我が国では、精神障害者の地域移行が重視されている<sup>1)</sup>。精神障害者の地域の孤立防止や生活保持のための援助が行われるなど、精神障害者の生活は入院から地域へ移行している。しかし、精神障害者が地域で生活するには課題も多い。

地域参加の阻害要因として社会性の損失やスティグマが存在し、安定した生活を難しくする<sup>2)</sup>。これまでの精神医療は、疾患の安定を優先する傾向にあった。

一方、精神障害者の安定に向けた援助として、自立やリカバリーが重視されている。そのため、精神障害者の自己実現を支えていく必要がある。しかし、精神障害者がどのような夢・希望・目標をもっているか明らかにした研究は少ない。

そこで本研究では、地域で生活する統合失調症を有する者の自己実現に影響する要因を明らかにすることを目的とする。この結果から、精神障害者が人生をより主体的に送るための支援を考察する。

## 方法

**1. 研究対象:** 現在地域生活を営んでおり、X市の指定就労支援施設B型事業所(Y事業所)に通所する、次の条件すべてを満たす3名を対象者とした。①統合失調症を有しており、症状が安定している者②1年以上施設に通所している者③研究協力の可否を自分の意思で判断できる者。

**2. 調査方法:** Y事業所のプライバシーが守られる個室にて、研究責任者同伴のもと学生1名が対象者1名に対し30分の面接を実施した。面接を受けることにより対象者の体調に変化が生じる可能性を考慮し、施設スタッフと調整し施設内に待機してもらった。面接は同意のもとICレコーダーで録音した。なお、調査は2016年10月中に行った。

**3. 調査内容:** インタビューガイドに沿って行った。なお、自己実現という言葉“夢・希望・目標”と表現し、対象者が理解しやすいよう配慮した。インタビューガイドは、①属性(名前・年齢)②夢・希望・目標の有無③夢・希望・目標を叶えるにあたっての取り組みと困りごと④夢・希望・目標に関わること以外で、普段の生活の中での取り組みと困りごと、の4項目とした。

**4. データ分析方法:** Berelson, B.の内容分析<sup>3)</sup>を用いた。録音されたデータを基に逐語録を作成し、研究者3名で主要な言葉を文脈単位として抽出した後、意味内容で区切ったものを記録単位とし、コード化した。コード化したものを類似分類し、サブカテゴリー

化したものに名前をつけた。さらに類似性のあるものを分類、抽出し、カテゴリー化したものに名前をつけ、記録単位数を算出した。分析は、常に逐語録と分析結果を繰り返し照合しながら行い、精神看護学教員のカテゴリー分類との一致率をScott, W.A.の式により算出し一致率を示した。一致率が70%に達しない場合、一致していない部分の再検討を行った。

**5. 倫理的配慮:** 本大学の倫理審査委員会の承認を得た(承認番号:16075)。対象者に研究の目的、方法、期間、研究協力の自由意思と拒否権、同意の拒否・撤回により不利益はないこと、研究に関する情報提供、データの管理及び研究終了後の破棄、倫理的配慮、について文書と口頭で説明し、その後書面で同意を得て面接を行った。本研究は、統合失調症を有する者が対象のため、特に体調への配慮を行った。

## 結果

148のコードを抽出し、本研究の内容にそぐわない23のコードを除いた125のコードから35のサブカテゴリー、11のカテゴリーを抽出した。抽出したカテゴリーをさらに“自己実現に向けた夢・希望・目標と取り組み”“自己実現に向かったの困りごと”の2つに大きく分類した(表1、2)。以下、カテゴリーを【 】で示す。

自己実現に向けた夢・希望・目標と取り組みは、【可能性の拡大と後押し】【働くことへの意欲】【あたたかな関係の構築】【対処行動をとっている】【より良い生活のための願望】【お金への満足】の計6カテゴリーに分類された。自己実現に向かったの困りごとは、【適した資源が得られていない】【病気による影響】【重荷となってしまう周囲への気遣い】【お金に関する悩み】【挫折の経験】の計5カテゴリーに分類された。

## 考察

### 1. 自己実現に向けた夢・希望・目標と取り組み

統合失調症を有する者は夢・希望・目標を抱いていることが明らかになった。特に〈昔からの夢・希望・目標を持ち続けられている〉ことが示され、〈評価が得られた経験〉〈継続されている自信〉など、昔からの夢・希望・目標が後押しされている経験や、〈可能性の芽生え〉といった可能性が拡大した経験を有していた。統合失調症を有する者が夢・希望・目標を持ち続けられる環境が整っていることで、自己実現につながると考えられる。その環境の一つとして、就労支援施設が存在が挙げられる。

統合失調症を有する者の対人関係の特徴として、人付き合いが苦手、他人への気配りを欠きやすい、他人との協調困難等が挙げられる<sup>4)</sup>。しかし、本研究では【あたたかな関係の構築】が見出

され、統合失調症を有する者も他者との関係性を活用していると考えられる。また、〈他者と一緒に行きたいこと〉というつながりが自己実現に向けた夢・希望・目標の【可能性の拡大と後押し】【働くことへの意欲】【より良い生活のための願望】に影響していると考えられる。

## 2. 自己実現に向かったの困りごと

自己実現に向かったの困りごとは、対人関係、お金、病気が主に挙げられた。

孤立しがちな統合失調症を有する者にとって、身近な存在である家族や仲間との程良い距離の中で互恵的な関係を保持することは周囲の人と付き合うための課題である<sup>5)</sup>。本研究においても【あたたかな関係の構築】がある一方、【重荷となってしまう周囲への気遣い】が抽出された。統合失調症を有する者が地域生活を送る中で、社会性が高まるとともに、周囲への気遣いが負の影響を及ぼしていると考えられる。

【お金に関する悩み】が抽出されたことから、収入と支出の両面において、悩みを抱えていることが明らかとなった。また、【病気による影響】は統合失調症によるもの以外に、人生を歩む一人の人として、心身に関心を寄せていることが明らかになった。自己実現とは、基本的欲求が絡まりあって達成されていくものである<sup>6)</sup>。本研究により、統合失調症を有する者が自己実現を達成するにあたって、基本的欲求の中でも特にお金や身体の健康が負の要因になることが考えられる。

## 3. 自己実現を可能にし、主体的に生活を送るための支援

本研究より、昔からの夢・希望・目標として発症以前の話が多く聞かれた。統合失調症の好発年齢は15～35歳である<sup>7)</sup>。よって、支援者は統合失調症を有する者の幼少期から学童期に抱いていた夢・希望・目標を明らかにしていくことで、統合失調症を有する者が自己実現の可能性を見つけることにつながるのではないかと考えられる。

【重荷となってしまう周囲への気遣い】に関して、支援者は、統合失調症を有する者が周囲に対しどのような気遣いを抱き、重荷となっているのかを具体的に知ることが必要と考えられる。そして、互恵的な関係を保持できる方法の提供をする必要があると考えられる。

〈収入が少ない〉ことに関し、精神障害者の平均月額賃金・工賃は常用労働者全体の約半分と示されており<sup>8)</sup>、経済的な余裕をもちにくいと考えられる。支出に注目し、お金の遣い方のアドバイスや、〈市内のバス移動に助成金が出る〉などの具体的な公共サービスの情報提供が必要であることがうかがえた。

統合失調症を有する者は、統合失調症以外の病気に対しても心配を抱いている。外来での統合失調症の治療を生活の中心としている者に対し、外

来の場を健康教室や健康相談などの生活習慣病予防活動に活用することの意義は大きい<sup>9)</sup>。このような支援を行うことで、統合失調症を有する者は自身の健康状態の把握や知識を習得することができ、〈自分の身体への心配〉を軽減することにつながると考えられる。そして、統合失調症を有する者は心身の健康が満たされていく経験により、自己の可能性を見出すことが期待できる。

## 謝辞

本研究にご協力いただきましたY事業所の利用者およびスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

## 引用・参考文献

- 1) 江藤真一(2014):精神障がい者のリカバリーをめざしたアウトリーチサービスの展開 地域に生活する精神障がい者の孤立を防ぐ, 日本精神科看護学術集会誌, 57(3), 408-412.
- 2) Link, B. G. (1987): Understanding labeling effects in the area of mental disorders: An empirical assessment of the effects of expectations of rejections. Am Sociol Rev, 52, 96-112.

他7文献

表1. 自己実現に向けた夢・希望・目標と取り組み

カテゴリー	サブカテゴリー	記録 単位数
可能性の拡大と後押し	昔からの夢・希望・目標を持ち続けられている	10
	夢・希望・目標につながる家庭環境	2
	評価が得られた経験	5
	継続されている自信	3
	可能性の芽生え	4
働くことへの意欲	適した環境の模索	3
	就労支援施設の仕事への意気込み	2
	頑張って継続して通所してきた	3
	通所を継続したい	4
あたたかな関係の構築	一般就労したい	2
	他者と一緒に行きたいこと	10
	就労支援施設のスタッフへの好感	5
対処行動をとっている	周囲に守られている実感	5
	就労支援施設の仲間との交流	2
より良い生活のための願望	生活の中に楽しみを取り入れている	2
	不快への対処行動	1
お金への満足	夢・希望・目標を実現するために生まれた欲求	4
	公共サービスに対する要望	2
妻への要望	妻への要望	3
	市内のバス移動に助成金が出る	1
	就労支援施設の工賃への満足	1

表2. 自己実現に向かったの困りごと

カテゴリー	サブカテゴリー	記録 単位数
適した資源が得られていない	自分の思いを溜め込んでしまう状況にある	8
	適さない環境により生じた不快感	2
	資格取得のための情報不足	2
病気による影響	自分の身体への心配	6
	病気による生活の変化	2
	夢・希望・目標の実現と病気との葛藤	3
重荷となってしまう周囲への気遣い	他者の身体への心配	5
	親に対する責任	3
	夢・希望・目標の実現と就労支援施設の仕事に対する責任との葛藤	3
お金に関する悩み	お金を遣いすぎてしまう	1
	お金がかかる	2
	収入が少ない	7
挫折の経験	現状の諦め	4
	評価が得られなかった経験	3